



J F E ホールディングス株式会社

2025 年度第 2 四半期 決算説明会（インベスターズミーティング）

2025 年 11 月 6 日

登壇

司会：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより JFE ホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

本日の出席者は、代表取締役副社長、寺畑雅史、常務執行役員、田倉綱大です。

本日の時間割ですが、ご説明約 30 分、質疑 30 分の合計 60 分を予定しております。

それでは、本日発表いたしました決算および業績見通しにつきまして、まずは代表取締役副社長、寺畑より業績の概要をご説明いたします。

業績ハイライト



- **中国の過剰生産、大量輸出による需給バランスの崩れ、市況の低迷**は世界各国・地域に波及しており、当社グループにおいても、**国内外のスプレッド縮小、海外事業環境の悪化**を見込む
- **米国をはじめとする各国の保護主義的な政策に伴う影響**は、足元の販売状況や通商環境の変化を踏まえ、**数量減リスクの縮小**を見込む
(単独粗鋼生産量2,150万t程度(対前回公表+50万t))
- 8次中期経営計画で織り込んだ、コスト削減や高付加価値品比率向上等の収益改善は着実に実行。引き続き、企業価値の持続的な向上に向けて、資本コストや株価を意識した経営を推進
- **年間見通しは、事業利益、セグメント利益、当期利益ともに前回公表通り**を見込む
※棚卸資産評価差等を除く事業利益は、1,900億円(対前回公表▲100億円)
- **年間配当は、8次中期経営計画方針通り80円**を見込む

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 3

寺畑：足元は大変厳しい環境が続いていますが、中国の過剰生産、大量輸出による需給バランスの崩れ、市況の低迷、これらが世界各国地域に波及しており、国内外におけるスプレッドの縮小、海外事業環境の悪化を今回も見込んでおります。

一方で、アメリカをはじめとする各国の保護主義的な政策の影響により昨年度比で100万トンの減産リスクを織り込んでいましたが、足元の販売状況、通商環境の変化などを踏まえ縮小を見込んでいます。前回までの100万トン減から、おおむね50万トン程度への縮小を今回織り込んでいます。

5月に第8次中期経営計画を発表しましたが、コスト削減、高付加価値品比率の向上等の収益改善策については着実に実行しており、引き続き、企業価値の持続的な向上に向けて、資本コストや株価を意識した経営を推進していきたいと考えています。

年間見通しは、事業利益、セグメント利益、当期利益とも前回公表どおりと見ております。一方で、棚卸資産評価差等を除く事業利益につきましては、対前回100億円マイナスの1,900億円と見ています。

なお、年間配当につきましては、第8次中期経営計画で配当性向30%に加えて下限配当80円という方針を打ち出しており、年間80円を見込んでいます。

私から簡単ではございますが、以上です。

田倉：それでは、業績について説明します。

4ページの内容説明については割愛し、この後のページで説明させていただきます。

2025年度 上期決算



- 上期事業利益は457億円（対前年同期▲361億円、対前回公表+57億円）
※棚卸資産評価差等除き 937億円（対前年同期▲411億円、対前回公表+7億円）

(億円)	2024年度 上期実績	2025年度 上期見通し (前回)	2025年度 上期実績	増減 (対前年同期)	増減 (対前回公表)
売上収益	24,507	23,300	22,326	▲2,181	▲974
事業利益	818	400	457	▲361	57
※棚卸資産評価差等除き	[1,348]	[930]	[937]	[▲411]	[7]
金融損益	▲98	▲150	▲115	▲17	35
セグメント利益	720	250	341	▲379	91
※棚卸資産評価差等除き	[1,250]	[780]	[821]	[▲429]	[41]
個別開示項目	▲121	0	0	121	0
税引前利益	599	250	341	▲258	91
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲174	▲100	▲74	100	26
当期利益	424	150	266	▲158	116

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 6

まず25年度の上期決算についてご説明します。

上期実績は、売上収益が2兆2,326億円ということで、前回公表から減収です。事業利益は457億円、セグメント利益は341億円、当期利益は266億円で、それぞれ前回公表から増益となりました。

2025年度 上期決算 セグメント別



(億円)	2024年度 上期実績	2025年度 上期見通し (前回)	2025年度 上期実績	増減 (対前年同期)	増減 (対前回公表)	増減内容 (対前回公表)
鉄鋼事業	17,293	15,400	15,374	▲1,919	▲26	
エンジニアリング事業	2,695	2,750	2,870	175	120	
商社事業	7,155	7,500	6,475	▲680	▲1,025	鋼材市況の下落 等
調整額	▲2,635	▲2,350	▲2,394	241	▲44	
売上収益 計	24,507	23,300	22,326	▲2,181	▲974	
事業利益 (A)	818	400	457	▲361	57	
※棚卸資産評価差等除き	[1,348]	[930]	[937]	[▲411]	[7]	
金融損益 (B)	▲98	▲150	▲115	▲17	35	
鉄鋼事業	345	▲150	▲53	▲398	97	P8参照
※棚卸資産評価差等除き	[875]	[380]	[427]	[▲448]	[47]	
エンジニアリング事業	89	90	126	37	36	売上収益増 等
商社事業	224	250	219	▲5	▲31	売上収益減 等
調整額	62	60	48	▲14	▲12	
セグメント利益 計 (A) + (B)	720	250	341	▲379	91	
※棚卸資産評価差等除き	[1,250]	[780]	[821]	[▲429]	[41]	

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 7

こちらはセグメント別に集計した表です。

売上収益の中で、商社事業の上期実績が 6,475 億円ということで、前回公表から 1,025 億円の減収となりました。鋼材市況の下落に加え、北米等の海外プロジェクトにおける売上が想定よりも伸びなかったことが要因です。

セグメント利益は、鉄鋼事業が▲53 億円、実力ベースでは 427 億円ということで、それぞれ前回公表からは増益となりました。

エンジニアリング事業は、126 億円ということで、前回公表から 36 億円の増益となりました。こちらは好採算案件の進捗が早まり、下期から上期に前倒しとなったことが要因です。

商社事業は、先ほど説明のとおり、売上収益が落ちたことにより、セグメント利益も前回から 31 億円の減となる 219 億円となりました。

2025年度上期 前回→今回 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



	単位	2025年度 上期（前回）	2025年度 上期実績				
単独 粗鋼生産量	万t	1,070程度	1,080	(億円)	2025年度 上期（前回）	2025年度 上期実績	増減
単独 出荷量	万t	950程度	953	セグメント利益	▲150	▲53	+97
鋼材 平均価格	千円/t	120程度	119.8	* 棚卸資産評価差等除き	380	427	+47
為替レート	円/₯₢	145程度	146.2				

内訳

①コスト	±0	
②数量・構成	+20	・ 粗鋼 1,070万t程度→1,080万t
③スプレッド*	±0	
④棚卸資産評価差等	+50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚卸資産評価差 +20 (▲440→▲420) ・ キャリーオーバー影響 +10 (▲40→▲30) ・ 為替換算差 +20 (▲50→▲30)
⑤その他	+27	<ul style="list-style-type: none"> ・ Gr会社 +20 ・ その他 +7

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 8

ここで、JFEスチールの上期決算の前回見通しと今回実績の比較をご説明します。

セグメント利益は前回よりも97億円の増益です。その内訳は、まず数量が10万トン増えたことにより20億円の増益。棚卸資産評価差等は、想定よりも若干原料高となったこと、円安の影響もあり50億円の増益。その他、国内グループ会社中心に27億円の増益となりました。

2024年度上期→2025年度上期 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



単位		2024年度 上期	2025年度 上期			2024年度 上期	2025年度 上期	増減
単独 粗鋼生産量	万t	1,103	1,080	(億円)				
単独 出荷量	万t	966	953	セグメント利益		345	▲53	▲398
鋼材 平均価格	千円/t	135.2	119.8	＊ 棚卸資産評価差等除き		875	427	▲448
為替レート	円/ドル	153.9	146.2					

内訳

①コスト	+90	・ 操業改善他
②数量・構成	▲50	・ 粗鋼 1,103万t→1,080万t
③スプレッド*	▲280	<ul style="list-style-type: none"> ・ 円高による輸出採算悪化 ・ 原料物価変動の販価反映時期差（マイナス影響）
④棚卸資産評価差等	+50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚卸資産評価差 ▲390 (▲30→▲420) ・ キャリーオーバー影響 +400 (▲430→▲30) ・ 為替換算差 +40 (▲70→▲30)
⑤その他	▲208	<ul style="list-style-type: none"> ・ Gr会社 +100 ・ その他 ▲308 (償却費、金利、工事時期差等)

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 9

24年度上期の実績と比較したものが、こちらの9ページです。

セグメント利益は 398 億円の減益です。詳細の説明は割愛しますが、主に円高による輸出採算悪化によるスプレッドの悪化、および償却、金利等の費用上昇が要因となります。

2025年度 業績見通し



- 事業利益・当期利益共に前回公表通りを見込む。

※棚卸資産評価差等除きの事業利益は1,900億円（対前回公表▲100億円）

(億円)	2024年度 実績		2025年度 見通し(前回)		2025年度 見通し(今回)		増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	上期	年間	上期	年間	上期 (実績)	年間	年間	年間
売上収益	24,507	48,596	23,300	47,500	22,326	46,000	▲2,596	▲1,500
事業利益 ※棚卸資産評価差等除き	818 [1,348]	1,353 [2,363]	400 [930]	1,400 [2,000]	457 [937]	1,400 [1,900]	47 [▲463]	0 [▲100]
金融損益	▲98	▲207	▲150	▲300	▲115	▲300	▲93	0
セグメント利益 ※棚卸資産評価差等除き	720 [1,250]	1,145 [2,155]	250 [780]	1,100 [1,700]	341 [821]	1,100 [1,600]	▲45 [▲555]	0 [▲100]
個別開示項目	▲121	297	0	0	0	0	▲297	0
税引前利益	599	1,443	250	1,100	341	1,100	▲343	0
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲174	▲524	▲100	▲350	▲74	▲350	174	0
当期利益	424	918	150	750	266	750	▲168	0

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 11

続いて、25年度の通期の業績見通しについて説明します。

表の青い部分が年度見通しです。売上収益は 4 兆 6,000 億円で、前回公表から商社事業を中心に 1,500 億円マイナスとなりました。事業利益は 1,400 億円、セグメント利益は 1,100 億円、当期利益は 750 億円と前回公表通りですが、実力ベースの事業利益は前回公表から 100 億円のマイナスとなりました。

2025年度 業績見通し セグメント別



(億円)	2024年度 実績		2025年度 見通し(前回)		2025年度 見通し(今回)		増減 (対前年度)	増減 (対前回公表)
	上期	年間	上期	年間	上期 (実績)	年間	年間	年間
鉄鋼事業	17,293	33,651	15,400	30,700	15,374	30,800	▲2,851	100
エンジニアリング事業	2,695	5,698	2,750	6,000	2,870	6,000	302	0
商社事業	7,155	14,385	7,500	15,000	6,475	13,500	▲885	▲1,500
調整額	▲2,635	▲5,139	▲2,350	▲4,200	▲2,394	▲4,300	839	▲100
売上収益 計	24,507	48,596	23,300	47,500	22,326	46,000	▲2,596	▲1,500
事業利益 (A) ※棚卸資産評価差等除き	818 [1,348]	1,353 [2,363]	400 [930]	1,400 [2,000]	457 [937]	1,400 [1,900]	47 [▲463]	0 [▲100]
金融損益 (B)	▲98	▲207	▲150	▲300	▲115	▲300	▲93	0
鉄鋼事業 ※棚卸資産評価差等除き	345 [875]	363 [1,373]	▲150 [380]	400 [1,000]	▲53 [427]	400 [900]	37 [▲473]	0 [▲100]
エンジニアリング事業	89	193	90	200	126	200	7	0
商社事業	224	479	250	500	219	450	▲29	▲50
調整額	62	108	60	0	48	50	▲58	50
セグメント利益 計 (A) + (B) ※棚卸資産評価差等除き	720 [1,250]	1,145 [2,155]	250 [780]	1,100 [1,700]	341 [821]	1,100 [1,600]	▲45 [▲555]	0 [▲100]

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 12

こちらはセグメント別です。売上収益は、商社事業において前回から 1,500 億円のマイナスを見込んでいます。セグメント利益は鉄鋼で 400 億円、実力ベースで 900 億円での見通しです。エンジニアリング事業は 200 億円、商社事業は 450 億円ということで、鉄鋼事業およびエンジニアリング事業は前回公表から変更なし、一方で商社事業はマイナス 50 億円の見通しです。

足元の事業環境認識（国内鋼材需要）

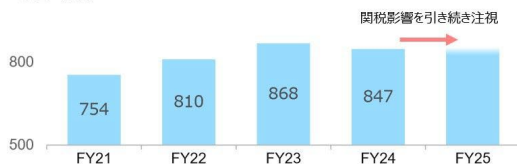
JFEスチール



- 製造業向けは、特に自動車・建産機分野にて、米国関税の及ぼす影響について引き続き注視
- 建設分野は、**建設コスト上昇・人手不足の影響を背景に低迷が継続**

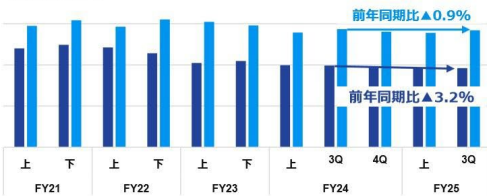
自動車生産台数見通し/年

単位：万台



国内普通鋼 鋼材消費見通し/Q

単位：百万トン



出典：経産省 10月16日発表 244Q以降は推定

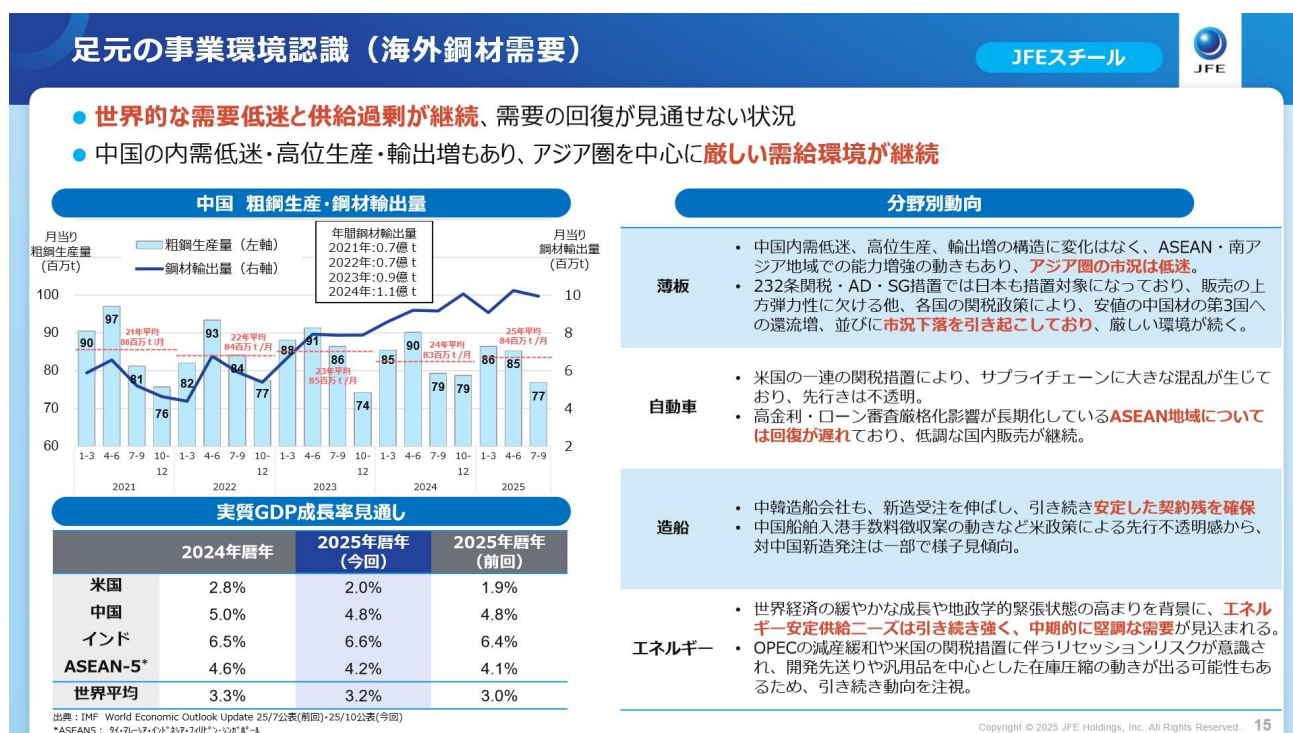
分野別動向

- 自動車**
 - 自動車関税並びに、他政策含めた先行き不透明感による**購買マインドの冷え込み等が今後の懸念要因**
 - 国内販売は大きな盛り上がり欠け、足元想定は25年期初に見込んだ販売台数から大きな変化はなし
- 造船**
 - 引き続き堅調な需要環境にあり、国内造船各社は**約3年分を超える受注残を確保**
 - 人手不足や労働時間規制等により建造ピッチが上がらない状況は継続
 - 日本造船業の競争力強化に向けて**資本提携や協業の動きが活発化**しており、今後の投資、生産効率化などの動向を注視
- その他製造業**
 - (建機) 全世界的な需要低迷の環境や、8月に鉄鋼派生製品関税に建機も追加されるなど、**関税影響による不透明性が継続**しており、今後の需要動向を引き続き注視 (産機)
 - 工作機械輸出に占める北米向け比率、内需の自動車向け比率は共に高く、米国の**自動車関税・相互関税の影響を注視**
- 建築**
 - 人手不足の影響に加え、資材高騰などの建設コストや金利の上昇等を背景とした建設投資・住宅取得マインドへの影響は根深く、**総じて需要は低調**
- 土木**
 - 各種コストの上昇や人手不足等の影響を受け、**実質的な活動水準や鋼材需要は漸減方向と想定**

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 14

続いて JFE スチールの事業環境を説明します。まず、足元の国内の事業環境です。製造業向けは、現時点で米国関税による大きな影響は見られません。自動車については、上段のグラフで示すとおり、現段階で 24 年とほぼ同水準の 850 万台程度と見込んでいますが、今後も関税の影響等については注視が必要だと思っております。建機についても、上期が終わった現段階では大きな変化はないと思っておりますが、8 月に鉄鋼派生製品関税に追加されたこともあり、今後の状況については注視していきたいと思えます。

一方、建設分野については、依然として建設コストの上昇、人手不足の影響を背景に低迷が続いております。下段のグラフの普通鋼、鋼材消費見通しでも、建設向けについては、前年同期比で 3.2%のマイナスを見込んでいます。



続いて海外の事業環境です。

中国の内需低迷が低迷しているなかで高位の粗鋼生産および輸出増が依然として続いており、厳しい需給環境が続いています。米国関税に加え、各国でアンチダンピング、セーフガードが課され、日本からの輸出製品でも対象になる品目が出ております。これにより販売の上方弾力性が欠ける一方で、売り先を失った中国材がその他のマーケットに流出するという状況で、市況下落に影響を与えていると考えています。



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 16

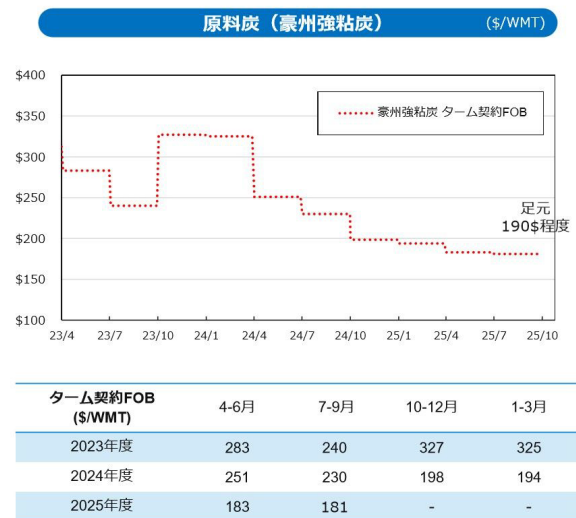
海外の鋼材市況の推移です。

中国については、依然として停滞が継続しています。

インドについては、セーフガードで一時的に上昇しましたが、モンスーン影響の長期化、あるいはGSTの改正を抑えた買い控え等もあり、足元は下落傾向に転じています。

米国については、関税影響でいったん急騰しましたが、需要はそこまで強くなく、足元関税の影響や、利下げの動向を様子見するといった動きもあり調整局面に入っています。

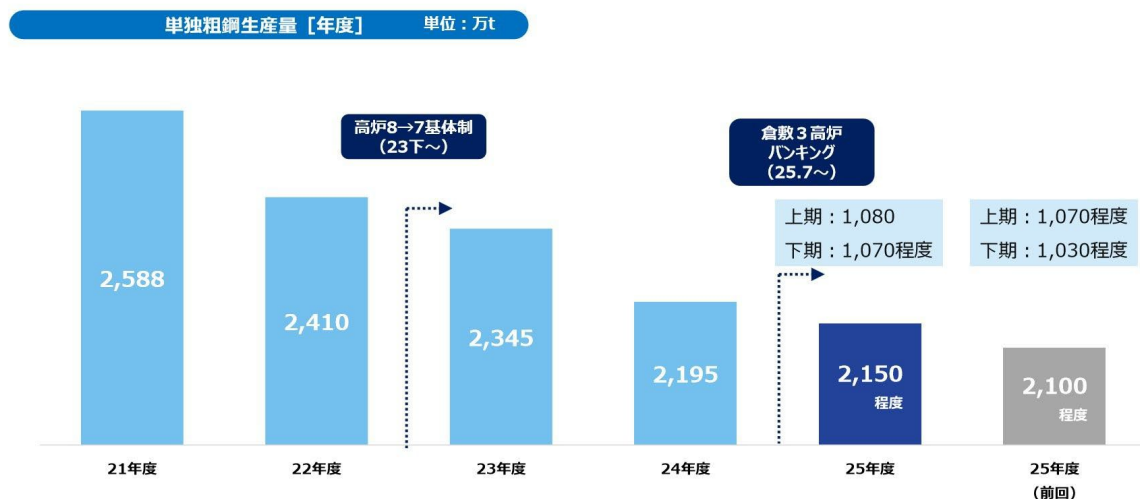
- 鉄鉱石、原料炭ともに需給環境に大きな変化はなく、**足元の価格レベルが継続するものと想定**



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 17

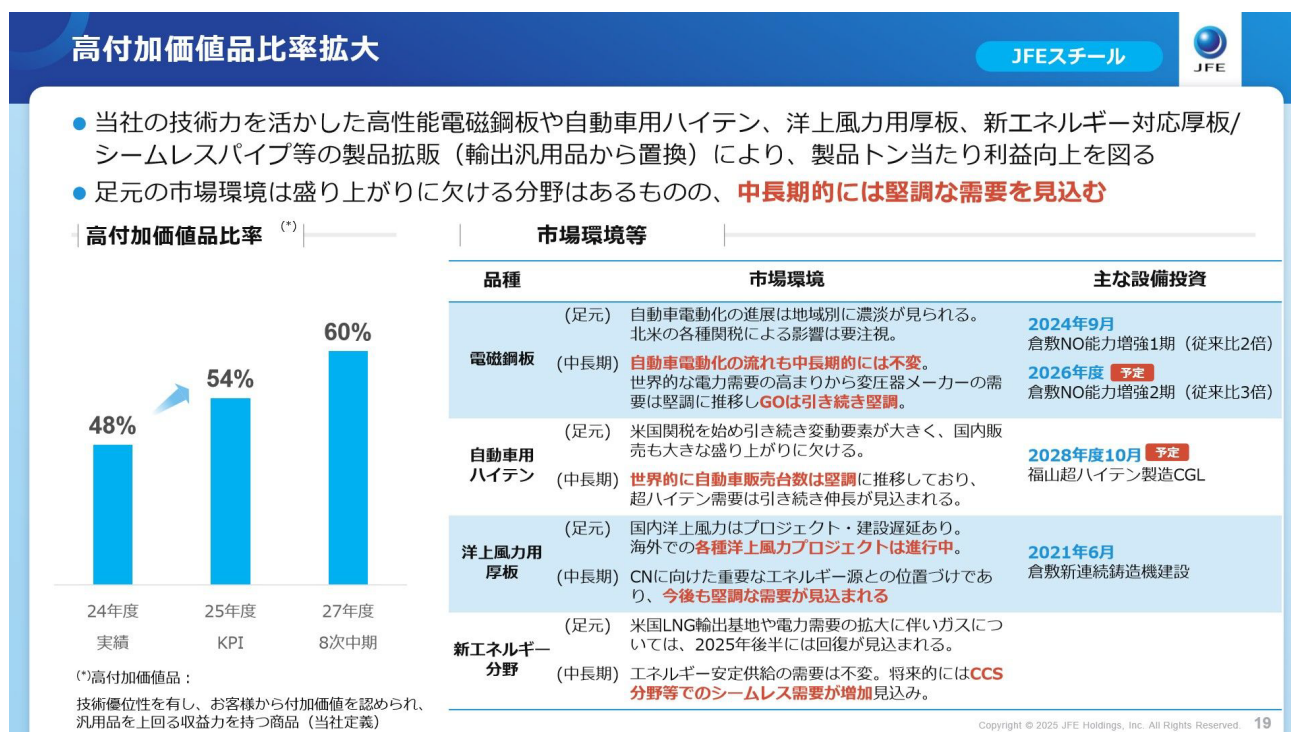
原料市況につきましては、鉄鉱石、原料炭とも需給環境には大きな変化はありません。足元の価格が継続する前提としており、鉄鉱石は90ドル程度、原料炭は190ドル程度で今年度は推移すると見込んでいます。

- 米国関税や、その他各国の通商措置による影響として、対前年比▲100万トン程度の数量減を織り込んでいたが、足元の販売状況等を勘案した結果、**対前回公表比+50万トンとなる2,150万トン程度**を見込む



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 18

粗鋼生産量は、冒頭ご説明したように、通商影響等で、対前年 100 万トン減るという前回までの見通しに対して 50 万トンのプラス。ただし、24 年度と比較すると、45 万トン減の 2,150 万トンと見込んでいます。



高付加価値品比率拡大への取り組みです。

当社は量から質への転換ということで、高付加価値品比率の拡大に取り組んでいます。市場環境は、分野によっては盛り上がりには欠ける厳しい状況ですが、目標達成に向けて、足元では電磁鋼板や洋上風力向けの厚板を中心に、生産増、販売増に取り組んでいるところです。

	単位	2024年度							2025年度					2025年度 前回見通し (年間)
					年間				年間					
		4-6月	7-9月	上期		10-12月	1-3月	下期		4-6月	7-9月	上期	下期	
売上収益	億円	8,606	8,687	17,293	8,289	8,069	16,358	33,651	7,612	7,762	15,374	15,426	30,800	30,700
セグメント利益	億円	315	30	345	104	▲86	18	363	▲121	68	▲53	453	400	400
棚卸資産評価 差等除き*	億円	365	510	875	444	54	498	1,373	169	258	427	473	900	1,000
単独粗鋼生産量	万 t	548	555	1,103	553	539	1,091	2,195	528	552	1,080	1,070程度	2,150程度	2,100程度
連結粗鋼生産量	万 t	580	589	1,169	583	567	1,150	2,320	561	581	1,142			
単独鋼材出荷量	万 t	470	496	966	487	484	971	1,936	471	482	953			
鋼材輸出比率 (単独・金額 [△] -)	%	40.6	44.2	42.4	40.0	41.9	40.9	41.7	39.9	42.8	41.3			
鋼材平均価格	千円/ t	139.2	131.5	135.2	127.0	124.0	125.5	130.3	120.4	119.2	119.8			
為替レート	円/¥ _米	155.0	152.8	153.9	149.0	154.1	151.6	152.7	145.3	147.0	146.2	150程度	148程度	145程度
期末為替レート	円/¥ _米	161.1	142.7	142.7	158.2	149.5	149.5	149.5	144.8	148.9	148.9	150程度	150程度	145程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、キャリーオーバー、為替換算差等を除いた損益

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 20

25年度の業績見通しにおける各諸元です。

単独粗鋼生産量は、上期が1,080万トン、下期は10万トン減の1,070万トンと織り込んでいます。鋼材輸出比率は、上期は41.3%であり、ほぼ24年の下期並みです。鋼材平均価格は11万9,800円で、24下期からは5,000円から6,000円の減です。これは前回公表と見方は変わっており、原料炭価格や円高影響が反映されたものです。為替レートについては、上期146.2円、下期は、前回145円程度と見ておりましたが、今回150円程度と見通しを変更しています。

2025年度 前回→今回 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



単位	2025年度 前回	2025年度 今回		2025年度 前回見通し	2025年度 今回見通し	増減
単独 粗鋼生産量	万t	2,100程度	2,150程度	(億円)		
単独 出荷量	万t	-	-	セグメント利益	400	400
鋼材 平均価格	千円/t	-	-	* 棚卸資産評価差等除き	1,000	900
為替レート	円/ドル	145程度	148程度			▲100

内訳

①コスト	+30	
②数量・構成	+60	<ul style="list-style-type: none"> 粗鋼 2,100万t程度→2,150万t程度 国内・輸出構成差（マイナス影響）
③スプレッド*	▲100	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の鋼材市況悪化 原料物価変動の販価反映時期差（マイナス影響） 円安による輸出採算改善
④棚卸資産評価差等	+100	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸資産評価差 +30 (▲500→▲470) キャリーオーバー影響 +40 (▲50→▲10) 為替換算差 +30 (▲50→▲20)
⑤その他	▲90	<ul style="list-style-type: none"> Gr会社 ▲100 (インド、北米 他) その他 +10

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 21

J F E スチールの前回見通しと今回見通しの差について説明します。

粗鋼生産量は50万トンの増、為替レートについては年間で3円程度の円安を見込んでいます。セグメント利益については前回見通し通り、実力ベースでは前回見通しからマイナス100億円という内訳を下の表で示しています。

まずコストですが、操業改善によるコスト削減を30億円プラスで見込んでいます。数量については、今回50万トン増えたことによるプラスの効果がある一方で、国内・輸出構成差はマイナスです。これは、今回の数量増の主な部分が、比較的利幅の低い輸出が主であったことから構成差が悪化した影響です。このマイナス影響を差し引き、プラス60億円を見込んでいます。

スプレッドについては、国内の市況悪化を受けた影響と販価反映時期差のマイナスに対し、円安による輸出採算改善効果のプラスが一部相殺され100億円のマイナスの見通しです。

棚卸資産評価差等についてはプラス100億円。その他については、グループ会社でマイナス100億円を見込んでいますが、主にインドと北米のグループ会社が影響しています。インドについてはJSW、米国はCSIということですが、いずれも期待したほどには収益が伸びない見通しで、前回公表からは下方修正しています。但し、この2社については前年度から大幅に改善している状況に変わりはありません。

JSWについては、7～9月の業績が発表されており、生産量については最高レベルでしたが、中国材の輸入に加え、GST改正前の買い控え等が影響し、当初見込んでいた収益には至らなかったと

ということです。今年度の最終の対象期間である10～12月については、ビジャヤナガールの製鉄所で3高炉の改修が行われることによる一時的な数量減も踏まえて、10～12月の収益は7～9月とほぼ同じ水準と見込んでいます。

CSIについても、特にアメリカの建設分野の鋼材需要が期待よりも弱かったことで、今回収益を下方修正しています。

2024年度→2025年度

セグメント利益 増減内訳

JFEスチール

JFE

単位	2024年度実績	2025年度見通し
単独粗鋼生産量	万t	2,195
		2,150程度
単独出荷量	万t	1,936
		-
鋼材平均価格	千円/t	130.3
		-
為替レート	円/ドル	152.7
		148程度

(億円)	2024年度実績	2025年度見通し	増減
セグメント利益	363	400	+37
* 棚卸資産評価差等除き	1,373	900	▲473

内訳

①コスト	+270	・ 操業改善他
②数量・構成	▲90	・ 粗鋼 2,195万t→2,150万t程度 ・ 高付加価値品拡大（電磁・風力向け厚板等）
③スプレッド*	▲530	・ 国内外の鋼材市況悪化 ・ 円高による輸出採算悪化 ・ 原料物価変動の販価反映時期差（マイナス影響）
④棚卸資産評価差等	+510	・ 棚卸資産評価差 ▲140（▲330→▲470） ・ キャリーオーバー影響 +650（▲660→▲10） ・ 為替換算差 ± 0（▲20→▲20）
⑤その他	▲123	・ Gr会社 +190 ・ その他 ▲313（償却費、金利、工事時期差 等）

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 22

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 22

24年度、25年度の比較です。

詳細は割愛いたしますが、実力ベースで473億円の減です。前年度から数量が45万トン下回っていることと、スプレッドの悪化、これらがコスト削減等を上回り、実力損益を減らす結果となりました。

2025年度上期→下期 セグメント利益 増減内訳

JFEスチール



単位		2025年度 上期実績	2025年度 下期見通し			2025年度 上期実績	2025年度 下期見通し	増減
単独 粗鋼生産量	万t	1,080	1,070程度	(億円)				
単独 出荷量	万t	953	-	セグメント利益		▲53	453	+506
鋼材 平均価格	千円/t	119.8	-	* 棚卸資産評価差等除き		427	473	+46
為替レート	円/₯₡	146.2	150程度					

内訳

①コスト	+100	・ 操業改善他
②数量・構成	+20	・ 粗鋼 1,080万t→1,070万t程度 ・ 高付加価値品拡大（電磁・風力向け厚板等）
③スプレッド*	▲100	・ 国内外の鋼材市況悪化 ・ 原料物価変動の販価反映時期差（マイナス影響） ・ 円安による輸出採算改善
④棚卸資産評価差等	+460	・ 棚卸資産評価差 +370 (▲420→▲50) ・ キャリーオーバー影響 +50 (▲30→+20) ・ 為替換算差 +40 (▲30→+10)
⑤その他	+26	・ Gr会社 ▲10 ・ その他 +36

*諸物価（金属、エネルギー、資材、物流、労務費、為替影響等）を含むスプレッド

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 23

上期と下期の比較です。

粗鋼生産量は10万トン減、為替レートは3.8円の円安という前提です。セグメント利益は506億円のプラス、実力ベースでは46億円のプラスです。内訳を下の表に示しています。コストは下期に操業改善等を追加し100億円のプラスです。

数量・構成については、10万トンのマイナス影響に対し、高付加価値品の拡大を進めており、プラス20億です。スプレッドについては、主に国内外の鋼材市況悪化が影響して100億円のマイナス。棚卸資産評価差等は460億円のプラス、これは25上期の棚卸資産評価減が消える効果です。その他プラス26億円を合わせてこのような結果となりました。

■ 足元の事業環境/損益概況

- 年間セグメント利益は、**200億円**を見込む（**前回公表通り**）
- Waste to Resource分野、カーボンニュートラル分野（洋上風力、LNG等）で前年度からの受注拡大を見込む
- 洋上風力モノパイル事業は多数の引き合いをいただいております、笠岡モノパイル製作所（国内唯一のモノパイル生産拠点）は、25年度中に本格製造を開始し、26年度のフル生産を目指す

■ 業績見通し

(億円)	24年度実績		25年度見通し		増減 (対前年度)		25年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期 (実績)	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	2,460	5,795	3,630	7,000	1,170	1,205	3,200	7,000
売上収益	2,695	5,698	2,870	6,000	175	302	2,750	6,000
セグメント利益	89	193	126	200	37	7	90	200

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 25

JFE エンジニアリングです。

年間セグメント利益は、前回公表とおりの 200 億円です。受注は、前回公表とおりの前年度から 1,000 億円以上の受注増で、廃棄物発電を中心とした Waste to Resource、洋上風力、LNG 等のカーボンニュートラル分野で受注拡大を見込んでいます。

なお、洋上風力のモノパイル事業につきましては、当初想定よりは稼働は遅れますが、現段階で多数の引き合いをいただいております、25 年度中に本格製造を開始、26 年度のフル生産を目指しています。

■ 足元の事業環境/損益概況

- 国内の建設需要の低迷継続や通商施策の影響による輸出取引減に加え、国内外の市況下落により、年間セグメント利益は、**450億円**を見込む（対前回公表▲50億円）

■ 業績見通し

(億円)	24年度実績		25年度見通し		増減 (対前年度)		25年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期 (実績)	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	7,155	14,385	6,475	13,500	▲680	▲885	7,500	15,000
セグメント利益	224	479	219	450	▲5	▲29	250	500

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 27

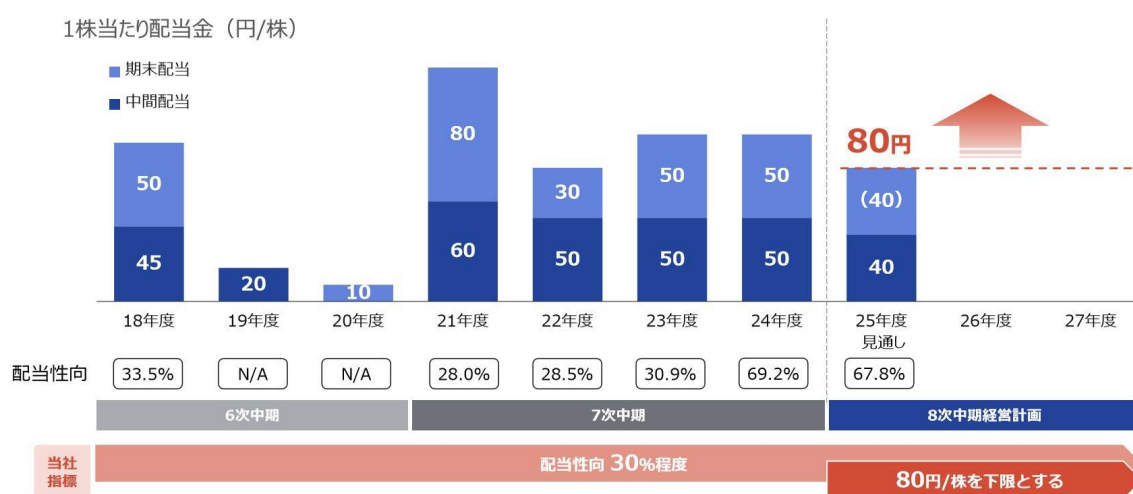
JFE 商事です。

今回、国内の建設需要の低迷継続や通商施策、国内外の市況下落により、年間セグメント利益は、前回公表から 50 億円減の 450 億円。前年から見ますと 29 億円の減です。

配当について

- 中間配当については、1株当たり40円を支払うことを、本日開催の取締役会において決議済
- 年間配当については、**1株当たり80円の見通し（8次中期経営計画^(*)通り）**

(*) 配当性向30%程度、但し、年間80円/株を下限とする



Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 29

配当については、冒頭で説明したとおり、中間 40 円、年間で 80 円という見通しです。

統合報告書・サステナビリティ報告書を発行



- 当社グループの取り組みをステークホルダーの皆様により深く理解していただくため、2025年度JFE GROUP REPORT（統合報告書）、JFEグループサステナビリティ報告書を発行

英語版は11月中発行予定

JFE GROUP REPORT（統合報告書）

成長戦略の観点から中長期的な価値創造ストーリーを紹介

今年度発行にあたっての重点ポイント

✓ 長期ビジョン、8次中期経営計画の詳細

CEOメッセージ、具体的取り組みと実現へのロードマップを開示

✓ 当社の競争優位性を生む技術の図解解説

カーボンリサイクル高炉、革新電気炉、DX活用

✓ 社外取締役による座談会

テーマ：長期ビジョン・8次中期経営計画策定プロセスの評価 他



JFE GROUP
REPORT
2025



マダウロードはこちら

<https://www.jfe-holdings.co.jp/common/pdf/investor/library/group-report/2025/all.pdf>

JFEグループサステナビリティ報告書

「環境」「社会」「ガバナンス」各側面の取り組み・データを網羅的に紹介

今年度発行にあたっての重点ポイント

✓ 気候変動問題に対する力強いコミットメント

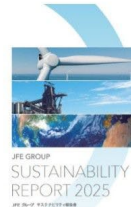
TCFD財務影響の見直し、ロビー活動実績と成果の開示

✓ 循環経済、生物多様性に関する記載の充実

個社毎の取り組み、バリューチェーンとの連携、TNFDに沿った開示

✓ 人材戦略、人権に関する取り組みの詳細

経営戦略（長期ビジョン）との連関、各社毎の取り組みの詳細開示



マダウロードはこちら

https://www.jfe-holdings.co.jp/common/pdf/sustainability/data/2025/sustainability_2025_j_A3.pdf

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 31

今回、トピックスを2点用意しています。

統合報告書・サステナビリティ報告書を発行しました。多くのステークホルダーの皆様にお目通しいただきたいと思います。今回、それぞれ重点ポイントとして3点まとめております。今回発表した長期ビジョン、第8次中期経営計画の詳細、これからの取り組みについて紹介していますので、ぜひご一読いただければと思います。

LNG関連案件の受注拡大

JFEエンジニアリング



- 2025年10月に大阪ガス(株)より姫路天然ガス発電所向け燃料供給設備一式工事を受注（10/2プレスリリース）
- LNG関連分野での受注 **1,200億円**（25-27年度累計）を目指す（対7次中期（21-24年度）+500億円）

トランジションエネルギーとしてLNG回帰の動き

長期脱炭素電源オークション LNG専焼火力募集量



- ・ データセンターや半導体工場の増加、再エネ(太陽光・風力等)大量導入に伴う調整力として電源需要増
 - ・ 電力需要増により国の長期脱炭素電源オークションにおいてLNG専焼火力の募集量が拡大
 - ・ 2026年度オークション以降も募集継続に向けて議論中
- LNG関連の基地増設、パイプライン、発電設備の出件ラッシュ

JFEエンジニアリングの強み

- ・ 大型案件に対し設計から調達、建設、試運転まで一貫して担えるプロジェクト遂行力
- ・ LNG関連設備の多数の施工実績
- ・ CO₂分離回収や化学プラントなど幅広い分野での実績
- ・ 当社施工のLNG基地の増設案件も出件が見込まれる

今回受注



大阪ガス(株) 姫路製造所



当社施工実績

LNG分野の豊富な実績で培ったプロジェクト遂行力を水素・アンモニアなど新エネルギーやCCS分野にも拡大し、カーボンニュートラル社会へ貢献していく

Copyright © 2025 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved. 32

JFE エンジニアリングの LNG 関係についてのトピックスです。

先ほどご説明したとおり、エンジニアリング事業の受注は順調に伸ばしてきており、その中でもカーボンニュートラル分野が好調です。その中で、今回 LNG 関連案件の受注拡大についてご紹介します。

既にプレスリリースで、大阪ガス様から姫路天然ガス発電所向けの燃料供給設備を受注したというニュースを出しております。今後もこういった取り組みを進めて、第 8 次中期経営計画期間中に 7 次中期の 4 年間に比べ 500 億円増の 1,200 億円の受注を目指して取り組んでまいります。

下段の左半分は、足元の事業環境を示しております。電力需要はこれからも増えることが想定される中で、LNG 回帰の動きがあります。このグラフは、国の長期脱炭素電源オークションの LNG の枠が、当初の 600 万キロワットから拡大していることを示しており、こういった状況を追い風に、当社エンジニアリング事業の強みである大型案件の遂行力、それから多数の施工実績をアピールし、今後受注を増やしていきたいと考えている次第です。

以上です。

質疑応答

司会：それでは、質疑応答に移ります。

質問者：中国からの旺盛な鋼材輸出や各国の保護主義的な動きが強まっていること等により厳しい環境の継続が想定されるなかで、高付加価値品の拡大等により鉄鋼セグメントの利益を来年、再来年と上積み出来るポテンシャルについてどのように考えるかコメントいただければと思います。

JFE：25年度下期の断面では、高付加価値品について言えば、特に洋上風力向けの厚板は本格的に需要が出ておらず、今後伸ばしていける分野だと考えています。電磁鋼板も足元では想定よりEVの動きが少し弱い部分もあるので、こちらはまだ伸ばしていける余地があると考えています。

質問者：モノパイルを含めたエンジニアリング事業、および商社事業の今後の見通し、課題につき教えてください。

JFE：エンジニアリング事業の受注業況についてはポジティブに考えていますが、LNG基地や洋上風力等のカーボンニュートラル分野を来年度以降どこまで伸ばしていけるかが8次中期達成に向けた課題と考えています。

商社事業は、足元ではアメリカの景気動向が想定に及ばなかったことが収益に影響していますが、下期以降、利下げの話も出ていますし、この立ち直りにどのように乗っていけるか、また、今後の展望ということでは、セルビアで立ち上げた電磁鋼板の加工工場等、電磁鋼板でどのように世界に拠点を作って、ビジネスを広げていけるかが重要だと考えています。

質問者：鉄鋼の下期の実力ベースでのセグメント利益の473億円は、マーケットも悪い中で、高炉を1基止めて黒皮輸出を減らす等、影響を最小限にとどめているという評価でしょうか？

JFE：冒頭に申し上げたとおり、現在、鉄鋼事業を取り巻く環境は非常に厳しいと認識しています。今年度は早期にバンキングという手を打てたこともあり何とか耐えている状況ですが、この環境が続くという想定下において、来年度以降どのような絵を描いて利益を積み増すことが出来るかを検討していく必要があると考えています。

質問者：商社事業の売上収益が10%ぐらい下方修正されている背景をもう少し詳しく教えてください。

JFE：商社事業も中国の供給過剰に端を発する鋼材市況悪化の影響を受けています。また、国内の建設分野が低迷している状況下、建材関係の関連会社も影響を受けています。アメリカについては当初想定に対してはやや弱いという印象です。また、中国のコイルセンターも良くない状況が続いています。

質問者：日本製鉄のU S スチール買収に加えて、POSCO とクリフスの提携等の話も出ているなかで、J F E の米国での事業戦略を改めて教えてください。

JFE：今の段階で確定的にお話しできるものではありませんが、従来から申し上げてまいりましたとおり、ベストパートナーであるニューコアとどのようなビジネスができるかということをつらねての政策面の動向も見ながら検討していきたいと思っています。

質問者：来期の数量、事業環境が横ばいの場合、コスト削減余力をどのように考えたらいいか教えてください。

JFE：コスト削減については、従来から毎年 200 億円規模の効果は出してきました。来年度は、今年度実施したバンキング効果が来年度はフルに発現するというもののほか、7 次中期期間に投資したものの効果が発現してくる部分もありますし、ソフト面においても、D X も活用してしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

質問者：JSW、CSI 等、海外グループ会社の収益に関して今後の見通しを教えてください。

JFE：JSW の 10－12 月はビジャナガールでの高炉改修の影響もあり 7－9 月から横ばいに見込んだため、想定より収益は落ちましたが、前年度実績は大幅に上回る想定で、上期段階で昨年度実績を超過しています。インドのマーケット自体は高い成長率で伸びていますし、セーフガードの発令効果や GST 改定前の様子見の解消もあり、来年度以降は更に収益が向上していくと期待しています。

CSI はスラブを輸入し加工するビジネスモデルですので、現状は関税影響を正面から受けている状況ですが、先日の利下げ発表以降、アメリカ経済も上向いていくという期待があり、来年度は回復していくと想定しています。

質問者：今回通期の粗鋼生産数量計画で 50 万トン増の背景を教えてください。また、韓国アンチダンピングの影響を教えてください。：

JFE：関税影響について、前回公表までは、なかなか定量的な積み上げというのは難しい部分もあるなかで当初は米国関税影響も含めて 100 万トンの影響を織り込んでいました。足元でも米国関

税影響は一定程度発生していますが、前回までの想定ほど発現しないであろうということで今回 50 万トンの影響に見直しました。

韓国のアンチダンピング影響に関してはお客様との関係もありますので具体的な話はできませんが、お客様のご理解も得ながら、一定量の供給は継続しています。

質問者：洋上風力に関して、一部では洋上風力からの撤退の動きがあるなかで、来年度本当にエンジニアリングのモノパイル工場がフル稼働まで持っていけるのか、またスチールの洋上風力向けの厚板に関して具体的にどのような引き合いがあるのか、もう少しご説明いただけますでしょうか

JFE：JFE エンジニアリングのモノパイル事業について、24 年度までにラウンド 1 案件が遅れた時点で非常に大きな影響を受けましたが、現在ラウンド 2、ラウンド 3 案件の受注に注力しています。ラウンド 2 案件に関して今年度から発注が始まり、来年度はラウンド 3 案件も出てきます。来年度以降にフル生産を目指すという事に関しては、ある程度受注の確度があると考えています。

スチールの洋上風力向け厚板に関しては、高付加価値品種を増やしていくために重要です。JFE エンジニアリングの案件を待つだけでなく、欧州やアジアなど日本以外での海外でのプロジェクトへの大単重厚板の販売活動に取り組んでおり、その成果を見込んでいます。

質問者：輸入鋼材も含めて鉄鋼ファンダメンタルズが非常に軟調な中ですが、市況の下げ止まり感が始めているようにもみえます。そのような中で鉄鋼事業において上期に対して下期でスプレッド悪化を見込んでいる理由を教えてください。また、スプレッドは紐付き分野も店売り分野も、両方とも悪化を見込んでいるのでしょうか？

JFE：鋼材市況が下げ止まったと言えるかどうかは引き続き注視していかなければならないと考えています。国内の原料価格に連動して販価が決まる分野についてはスプレッドの維持ができていますが、それ以外の市況分野、特に国内の建材や薄板の汎用品の部分は大きな影響を受けており、こうした分野を中心に厳しい環境が続くことを想定した織り込みとしています。

質問者：粗鋼生産量の第 1 四半期から第 2 四半期への伸び率と比較して、出荷量の伸び率がやや小さいかと思いますが、この差異について特別な要因があれば教えてください。

JFE：特別な理由はなく、生産と出荷のタイミング差によるものです。

質問者：為替に関して円安による輸出採算改善という記載がありますが、今の為替感応度と、円安は御社にとってメリットでいいのかという点について確認させてください。

JFE：為替の影響は、国内については、基本的にはほぼ販価に転嫁できるという前提で、輸出の部分で影響が出ます。輸出の影響は、半期あたり1円円安につき10億円程度の収益改善に寄与するものと考えています。

質問者：JFE 商事のケリー・パイプに関し、北米の、特にパイプの事業環境や業績動向について確認させてください。

JFE：個社の業績については申し上げられませんが、パイプの事業環境については年度収益は昨年度と比べ改善を見込むものの、トランプ大統領に代わって比較的良かった年度当初と比べると、足元は悪くなってきているという感触です。鉄鋼事業でも、関税影響を受けてエネルギー関連の開発が様子見や先送りになっている影響でシームレスパイプの需要に一部影響が出始めているという話もあります。

質問者：日経新聞にJFEが今後資産売却を増やす可能性があるというようなインタビュー記事が出ていましたが、どういった資産が対象として考えられるのか教えて下さい。

JFE：資産売却を増やすというよりも、8次中期で掲げた資産売却をしっかりとやっていくということです。持ち合い株についてはほとんど売却が進んでおりますが、グループ会社の保有している土地や、選択と集中を進める中では事業売却も考えていかなければならないと考えています。

司会：これでインベスターズ・ミーティングを終了させていただきたいと思います。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

本資料は当社の業績の状況について一般に公表するために作成された資料であり、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、日本国、米国又はそれ以外の一切の法域における有価証券への投資に関する勧誘を構成するものではありません。提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。